

タイムレコーダ読込の基本手順（「E-05」・「メモリーが満杯です」の エラーを防ぐには？）

■ 対象製品

この資料は、以下の製品について記述したものです。

就業奉行 V ERP8 /V ERP

■ 操作の前に

タイムレコーダ上に記憶できる打刻件数は、タイムレコーダのメモリ容量によって異なります。メモリ容量がいっぱいになると、打刻はできません。そこで、メモリ容量がいっぱいになる前に、打刻データを就業奉行に読み込み、タイムレコーダ上から打刻データをクリアする必要があります。

<タイムレコーダ読込をおこなうタイミング>

以下の計算式で、打刻データを記憶できる日数を確認します。

打刻データを記憶できる日数

＝メモリ容量÷（社員数×社員 1 人の 1 日あたりの打刻件数）

※メモリ容量は、タイムレコーダの取扱説明書で確認します。

（例）

メモリ容量 10,000 件、社員数 200 人、

1 日あたりの打刻件数は 2 回（出勤時と退出時のみ） の場合

$$10,000 \div (200 \times 2) = 25 \text{ 日}$$

1 ヶ月に 1～2 回打刻データをクリアする必要があります。

打刻データをクリアするには、タイムレコーダを直接操作してクリアするか、就業奉行で打刻データを読み込むときにクリアします。

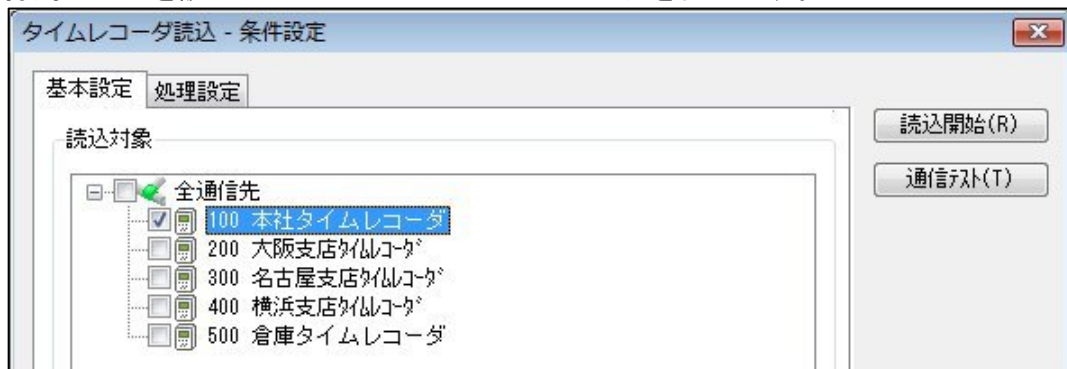
本資料では、タイムレコーダ読込の基本手順として、就業奉行へ打刻データを読み込むときにタイムレコーダ上の打刻データをクリアする手順をご案内します。

※タイムレコーダを直接操作して打刻データをクリアする手順は、タイムレコーダの取扱説明書をご確認ください。

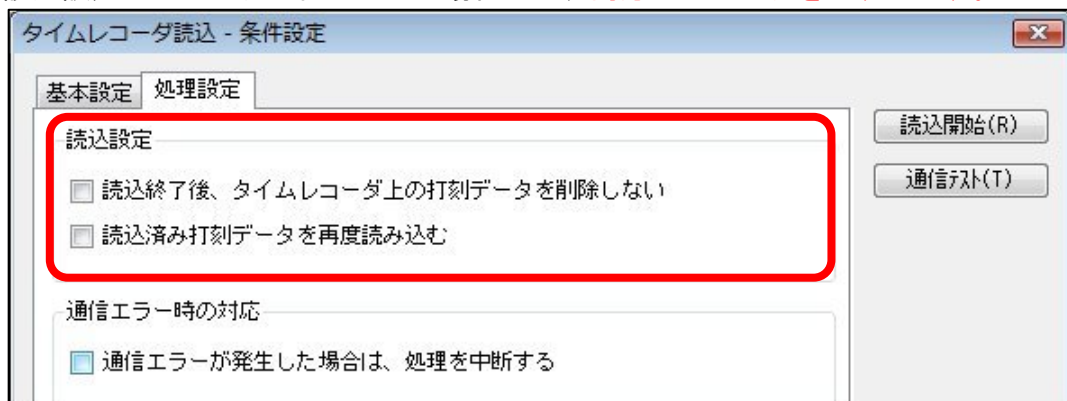
■ タイムレコーダ読込の基本手順（就業奉行へ打刻データを読み込むときに打刻データをクリアする手順）

※就業奉行で打刻データを読み込むことで、読み込み済の打刻データをタイムレコーダ上から削除（クリア）することができます。

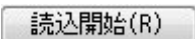
1. [データ領域管理]-[データ領域選択]-[データ領域選択]メニューで、打刻データを読み込むデータ領域を選択します。
2. [タイムレコーダ]-[タイムレコーダ読込]メニューを選択します。
3. [タイムレコーダ読込 - 条件設定]画面で、以下の設定をします。
 - ・ [基本設定] ページ
打刻データを読み込むタイムレコーダにチェックを付けます。



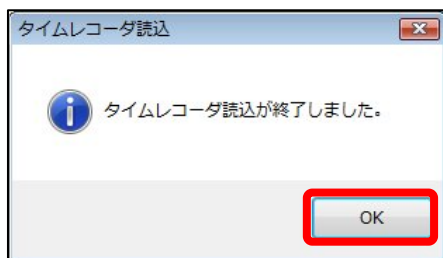
- ・ [処理設定] ページ
読み込み設定のチェックが付いている場合には、**両方のチェックをはずします。**



※1 台のタイムレコーダを複数のデータ領域で運用している場合には、読み込み設定のチェックを付けて読み込みます。詳しくは、4 ページをご参照ください。

4.  ボタンをクリックします。

5. 読込終了のメッセージが表示されたら、 ボタンをクリックして、[タイムレコーダ読込]メニューを閉じます。



6. [勤怠処理]-[勤務データ入力]-[タイムカード入力]メニュー、または[日別勤務データ入力]メニュー、または[社員別勤務データ入力]メニューで読み込んだ打刻データを確認します。

【参考】バックアップの作成手順

大切なデータを取り込み・入力した後は、バックアップを行うことをおすすめします。万一、入力データを消してしまった場合でも、バックアップをとった時点から復元することができます。

1. [随時処理]-[バックアップ]メニューを選択します。
2. バックアップモードを選択します。
 - ・「OBC専用モード」
指定されたフォルダに複数のバックアップファイルを作成します。
※USBメモリやMOにコピーをとる場合には、OBC専用モードを選択します。
 - ・「DB依存モード」
データ領域で1つのバックアップファイルを作成します。
※データベースをそのままコピーするため、バックアップの処理速度はOBC専用モードよりも速くなります。
3. [フォルダ参照]ボタンをクリックして、バックアップの作成先を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
4. [バックアップ]画面で[OK]ボタンをクリックして、バックアップを実行します。
5. 「バックアップが正常に完了しました。」というメッセージが表示されたら、[OK]ボタンをクリックして終了します。

※複数のデータ領域のバックアップを一括で作成する場合には、[データ領域管理]-[バックアップ／復元]-[一括バックアップ]メニューから行います。

【参考】

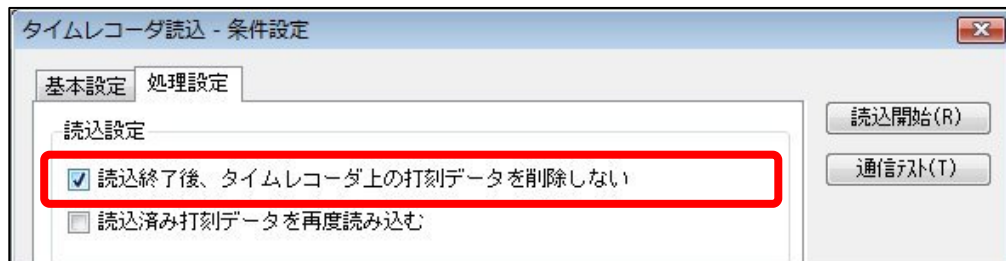
1 台のタイムレコーダを複数のデータ領域で運用している場合

■ 手順

※2 つのデータ領域に打刻データを読み込む場合の手順です。

<1 つ目のデータ領域に、打刻データを読み込む>

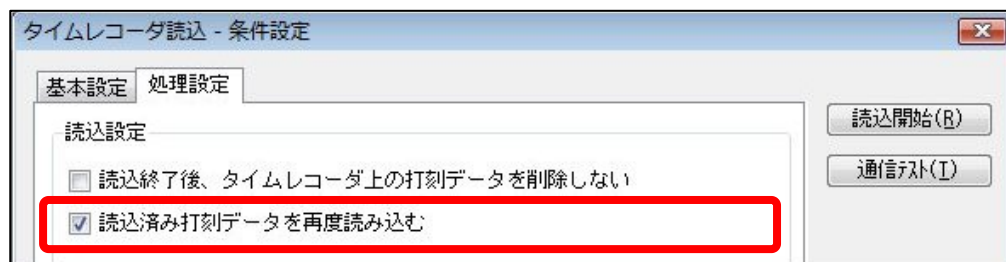
1. [データ領域管理]-[データ領域選択]-[データ領域選択]メニューで、1 つ目のデータ領域を選択します。
2. [タイムレコーダ]-[タイムレコーダ読込]メニューを選択します。
3. [タイムレコーダ読込 - 条件設定]画面で、[処理設定]ページにある「読込終了後、タイムレコーダ上の打刻データを削除しない」に**チェックを付けて**、打刻データを読み込みます。



※2 つ目のデータ領域に読み込む打刻データを含め、すべての打刻データがタイムレコーダ上に残ります。

<2 つ目のデータ領域に、打刻データを読み込む>

4. [データ領域管理]-[データ領域選択]-[データ領域選択]メニューで、2 つ目のデータ領域を選択します。
5. [タイムレコーダ]-[タイムレコーダ読込]メニューを選択します。
6. [タイムレコーダ読込 - 条件設定]画面で、[処理設定]ページにある「読込済み打刻データを再度読み込む」に**チェックを付けて**、打刻データを読み込みます。



※1 つ目のデータ領域へ読み込んだデータを含め、タイムレコーダ上の打刻データをすべて読み込みます。

※読み込んだ打刻データは、タイムレコーダ上から削除されます。

※3 つ以上のデータ領域へ読み込む場合


手順 6. で、「読込終了後、タイムレコーダ上の打刻データを削除しない」と「読込済み打刻データを再度読み込む」の両方に**チェックを付けて**読み込みます。そのあと、最後に読み込むデータ領域へ打刻データを読み込むときには、「読込済み打刻データを再度読み込む」の**チェックのみを付けて**、打刻データを読み込みます。

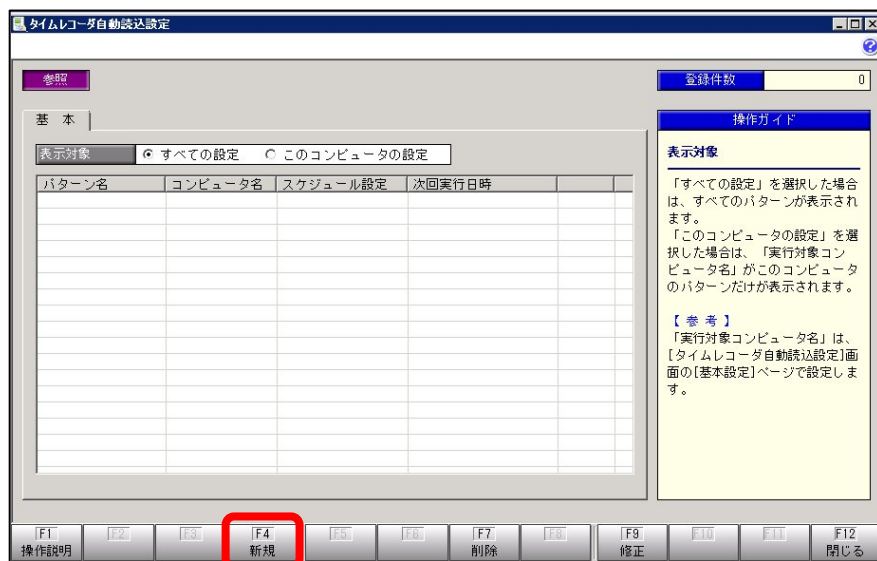
【参考】

タイムレコーダ自動読込の設定手順

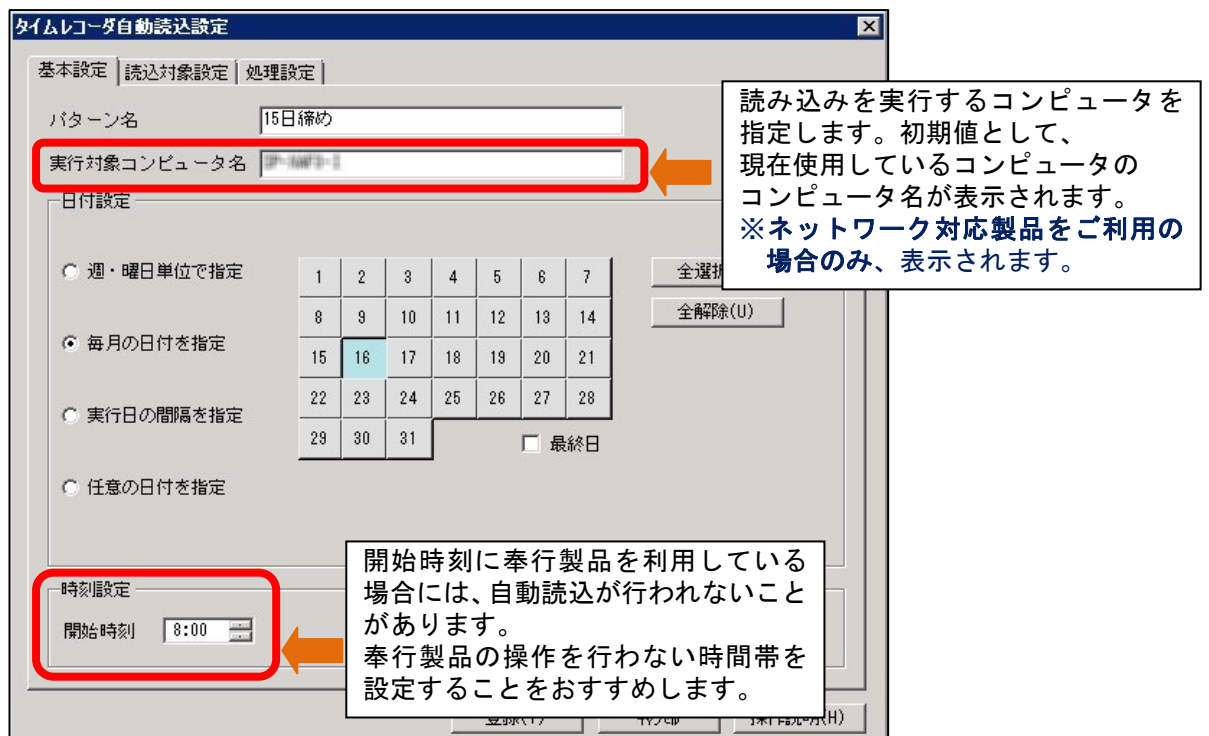
あらかじめ日時などを設定しておくことによって、決められた日時にタイムレコーダから打刻データを自動で読み込むことができます。

■ 手順

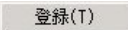
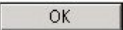
1. [タイムレコーダ]-[タイムレコーダ自動読込]-[タイムレコーダ自動読込設定]メニューを選択します。
2.  キーを押して、自動で読み込む条件を設定します。



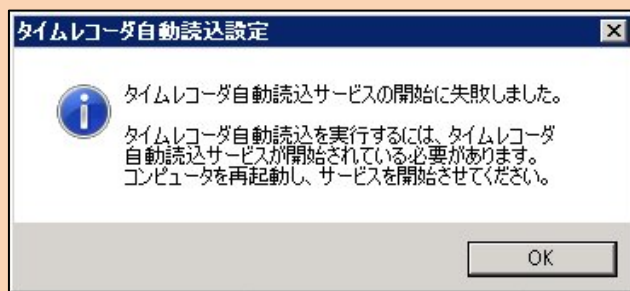
3. [タイムレコーダ自動読込設定]画面で、自動で読み込む条件を設定します。



※毎月16日に読み込む場合の設定例です。

3. [読込対象設定] ページで、打刻データを読み込むタイムレコーダにチェックを付けます。
4. [処理設定] ページで、読み込みに関する設定や通信エラー時の対応を設定し、 ボタンをクリックします。
5. 確認のメッセージが表示されたら、 ボタンをクリックして、[タイムレコーダ自動読込設定] メニューをとじます。

※以下のメッセージが表示された場合



[OK] ボタンをクリックして [タイムレコーダ自動読込設定] メニューをとじたあと、以下の手順でタイムレコーダ自動読込サービスを開始します。

1. [スタート]-[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス] を選択します。
(または、[スタート]-[コントロールパネル]-[システムとメンテナンス]-[管理ツール]-[サービス] を選択します。)
2. 「OBC AutoReadTime TL Single Service」を右クリックして、「開始」をクリックします。
※ネットワーク対応製品をご利用の場合には、「OBC AutoReadTime TL Service」をクリックして、「開始」をクリックします。
3. 状態が「開始」になったことを確認して、[サービス] 画面をとじます。

【注意】

タイムレコーダ自動読込の開始時刻には、読み込みが行われるコンピュータの電源が入っている必要があります。
また、省電力モードの設定を行っている場合には、設定を解除してください。

POINT タイムレコーダ自動読込の実行履歴を確認するには

[タイムレコーダ自動読込設定] メニューで登録したタイムレコーダ自動読込設定のうち、すでに実行されたタイムレコーダ自動読込の履歴は、[タイムレコーダ]-[タイムレコーダ自動読込]-[タイムレコーダ自動読込履歴] メニューで確認できます。

以 上